

加古川出身サッカー選手 寺川能人さん現役引退

JR曾根駅前の荘所さん方に掲げられた横断幕と荘所千代美さん＝高砂市春日野町



20年間夢ありがとう

1993年のJリーグ創設からJリーガーとして活躍してきた加古川出身のプロサッカー選手寺川能人さん(38)が、20年にわたる現役生活を引退した。「好きなことを職業にできて幸せだった」と寺川さん。東播のサッカー少年の目標にもなってきた。少年時代に指導したNPO法人スポーツクラブアミサージ代表の荘所俊二さん(65)は「今まで20年間夢をありがとう」との横断幕を高砂市春日野町の自宅に掲げた。(井上 駿)

少年時代に指導 クラブの代表 ねぎらい横断幕

寺川さんは加古川市立神野小学校に入団。6年生のとき、同チーム3年のとき、神野SC(現・加古川)は初めて全日本少年サッカー大会に神野SCアミサージ・ジュニア) 出場した。山手中、滝川第二高に進

「好きなことやれ幸せだった」

20年間にわたってプレーした寺川能人選手(アルビレックス新潟提供)



み、93年、横浜マリノスに入団。その後、アルビレックス新潟や湘南ベルマーレなどを経て、2011、12年は、日本フットボールリーグ(JFL)のFC琉球でプレーした。

チームの状況に応じたポジションで試合に出場し、献身的なプレーでチームを支えてきた。02年に新潟でキャプテンを務め、09年には湘南のJ1復帰に貢献。寺川さんは「チームの中で常に『自分ができること』を追い求めてきた」と話す。

しかし、琉球が来季の契約更改をせず、引退を決意。「もっとやりたいかったが、体力的に苦しくなった。今後は指導者の道に進み、当面はサッカーの普及活動にあたることになりそう。「少年サッカーの加古川のチームと、自分のチームとを対戦させたい」と話す。

寺川さんはプロになった後も、アミサージの初蹴りによく顔を出した。荘所さんは「本当に真面目な選手で、寺川君に憧れてサッカーにのめり込んだ子どもも多い」と話す。チームのマネジャーで、妻の千代美さん(58)とともに「Jリーグの創生期から今まで長い間、本当にお疲れさまでした」とねぎらう。